

若年者における円板状半月板術後の離断性骨軟骨炎 発生因子の検討

○韓 昌勲^(MD) (はん ちゃんふん)¹⁾, 橋本 祐介^(MD) 1), 西田 洋平^(MD) 1), 山崎 真哉^(MD) 2),
瀧上 順誠^(MD) 3), 西野 壱哉^(MD) 2), 高橋 真治^(MD) 1), 中村 博亮^(MD) 1)

¹⁾ 大阪市立大学 医学部整形外科

²⁾ 大阪市立総合医療センター 整形外科

³⁾ 運動器ケア しまだ病院 整形外科

【目的】

円板状半月板 (discoid lateral meniscus, 以下 DLM) に対する関節鏡視下手術後に離断性骨軟骨炎 (osteochondritis, 以下 OCD) が発生することが症例報告されているが, その要因についての研究はほとんどない. 今回我々は術後 OCD 発症の関連因子について解析した.

【対象と方法】

DLM に対して関節鏡視下手術を行った 103 膝 (平均年齢 11.8 歳, 平均経過観察期間 3.9 年) を対象とした. 手術方法は DLM の損傷形態に応じて, 鏡視下部分切除術 (以下, saucerization), saucerization および半月縫合術, 半月垂全摘術を行った. 術後 OCD 発生は単純 X 線にて評価を行った. 術後 OCD 発症の有無で 2 群に分類し, 年齢, 性別, 術前の OCD の有無, スポーツ復帰時 Tegner activity scale (TAS), 術式に関して 2 群間で比較検討を行った.

【結果】

12 膝 (11.7%) に術後 OCD を発症した. 術後 OCD 発症症例の初回手術時平均年齢は 9.2 歳 (7 ~ 13 歳) で, 術後 1.5 ~ 5 年以内に OCD を発症し, 発症平均年齢は 12.2 歳 (11 ~ 15 歳) であった. 10 歳未満, 男児において術後有意に OCD を発症し ($P < 0.01$), 年齢, 性別を調整した多変量解析では半月垂全摘症例で発症率が高く ($P < 0.05$), 復帰時 TAS7 以上で OCD 発症する傾向にあった ($P = 0.07$).

【考察】

過去の術後 OCD 発生症例報告では低年齢手術, 全摘あるいは垂全摘手術, 高いスポーツ活動性患者に多いと報告されている. 本研究では年齢, 性別, 垂全摘手術, スポーツ活動性が検出された. 若年者に対する手術は慎重になるべきであり, できるだけ半月板を温存する手術を選択すべきであると考えられた.

【結論】

DLM 手術後の OCD 発生率は 11.7% であり, 若年者, 男児, 垂全摘手術, スポーツ復帰時の高活動性は OCD 発生の関連因子であった.